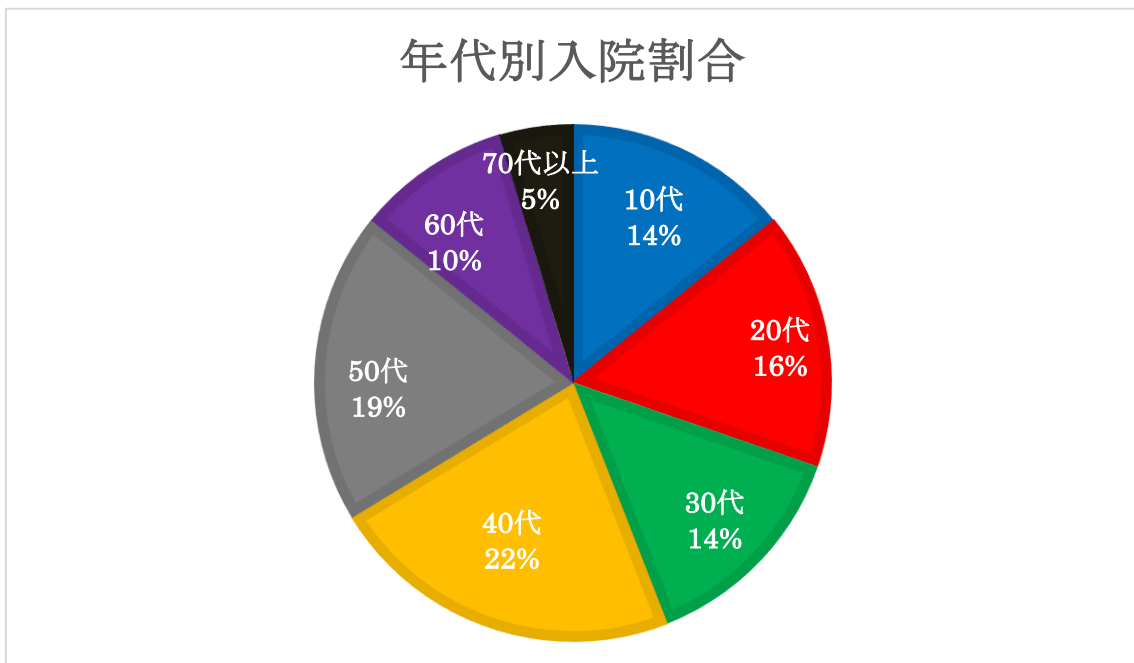


2018年4月～6月 J-BADO 結果

※医療観察法病棟を除く全病棟の新規入院

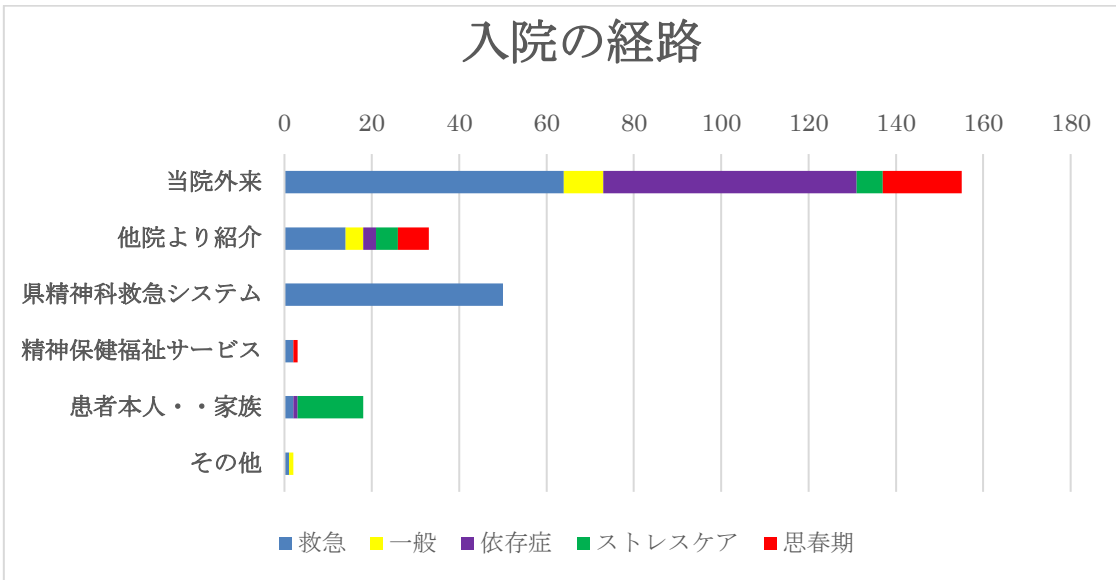
2018年4月～6月新規入院例（入力数）

| | 救急 | 一般 | 依存症 | ストレスケア | 思春期 | 全体 |
|-----|-----|----|-----|--------|-----|-----|
| 入院数 | 133 | 14 | 61 | 26 | 27 | 261 |

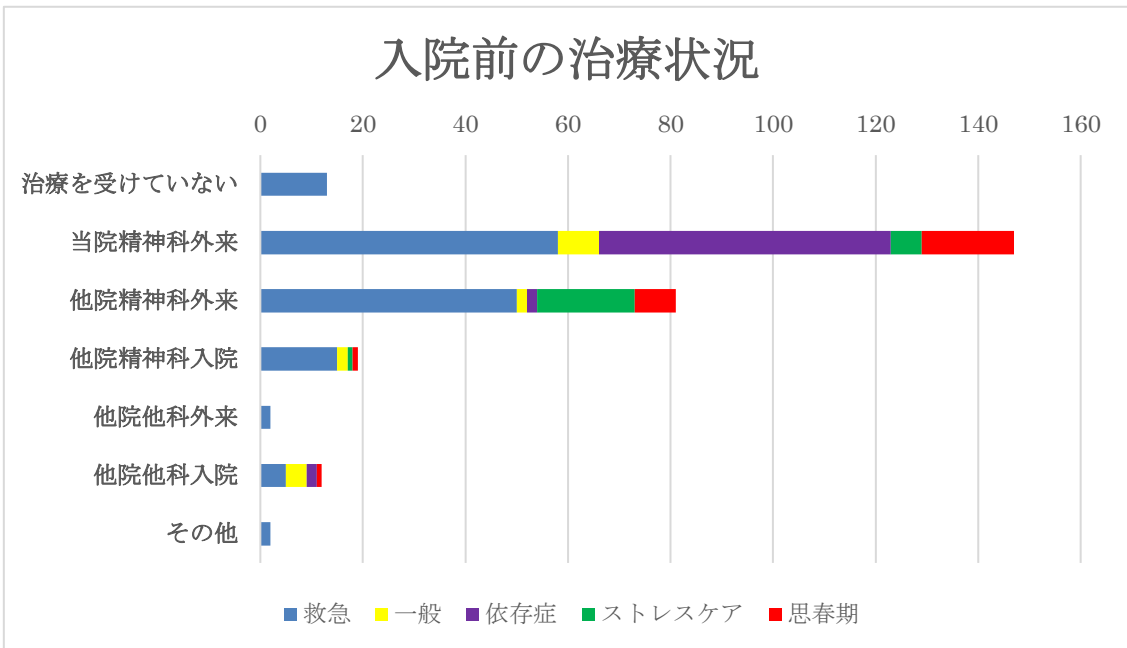


40代が最も多く、50代、20代が続く。

10代の多くは、思春期病棟への入院である。

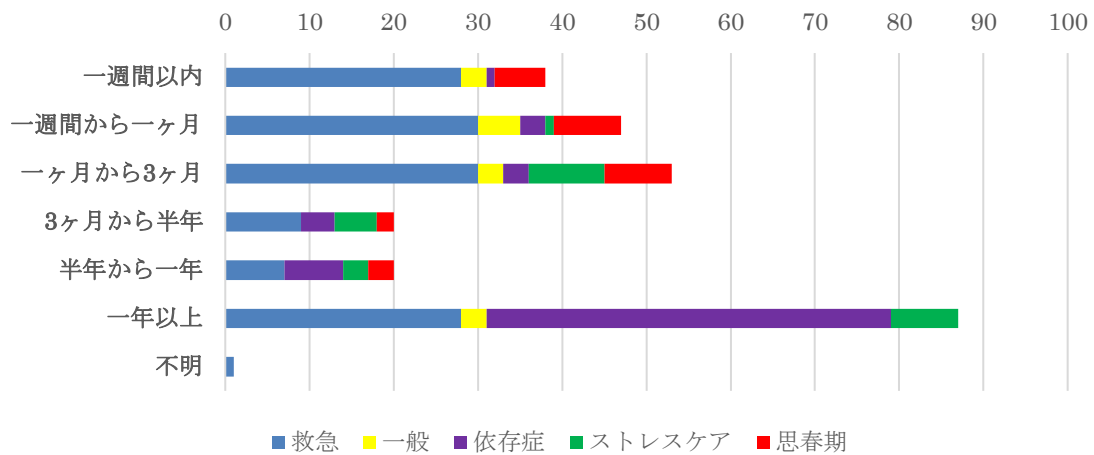


全体では当院外来が最も多い。
 依存症病棟はほとんどが当院外来経由である。
 救急病棟では県精神科救急システム経由も多い。
 ストレスケア病棟では患者本人・家族からの依頼が最も多い。



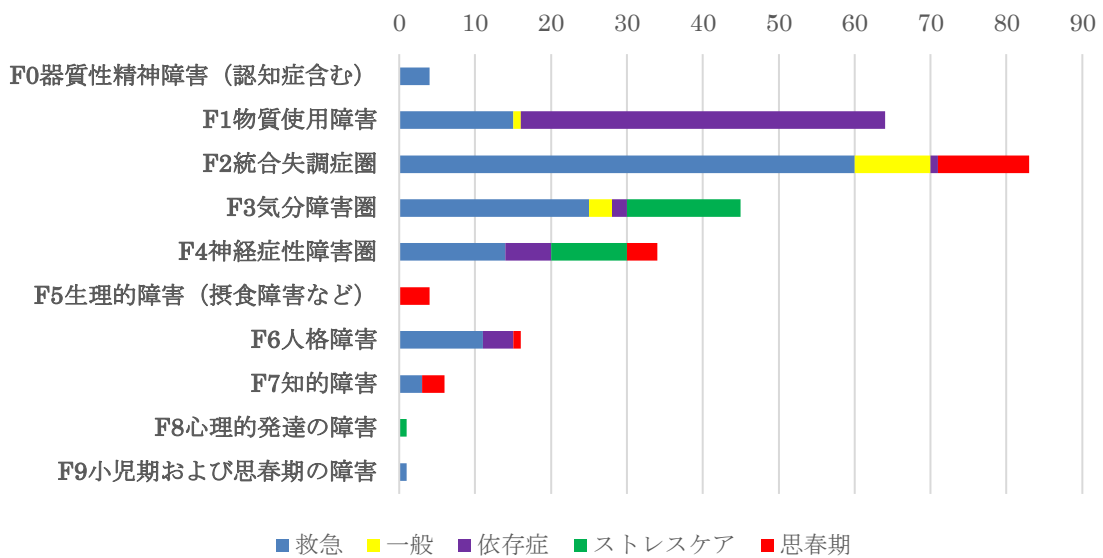
救急、一般、依存症、思春期病棟ともに当院精神科外来が最も多い。
 ストレスケア病棟では他院精神科外来が最も多く、救急病棟でも他院精神科外来が多い（救急システムを反映している）。

エピソード発生から入院までの期間



エピソード発生から入院までの期間は、発症または今回の病状悪化から入院に至るまでの期間を指す。救急病棟、一般病棟、思春期病棟では多くが、エピソード発生から3ヶ月以内に入院しているが、依存症病棟、ストレスケア病棟、依存症病棟では、長期経過した後の入院が多い。

入院時主診断



全体では統合失調症圏、物質使用障害圏、気分障害圏、神経症性障害圏の順である。救急病棟、一般病棟、思春期病棟ともに統合失調症圏が最も多い。ストレスケア病棟では気分障害圏、神経症性障害圏がほぼ同数である。依存症病棟では物質使用障害圏がほとんどである。